

平 2 7 . 8 . 2 0
総 1 6 - 3

高齢者の社会的孤立と貧困の実態

明治学院大学 社会学部教授

河合 克義

1 私の研究テーマとフィールド調査

(1) 貧困研究

– その一つの現象としての社会的孤立問題

(2) 研究分野の限定

– 高齢者の貧困と社会的孤立

(3) 地域調査

調査地：

大都市地域では東京都の世田谷区、港区、葛飾区、江東区、中野区、横浜市鶴見区、
地方都市と農村地域では、山形県の全市町村、千葉県君津市、神奈川県大井町、長野県
高遠町、山口県東和町、北海道三笠市、沖縄県読谷村、沖縄県宮古島市等

2 孤立死の急増

(1) UR都市機構

孤立死人数:1999年度207(94)人 2009年年度665(472)人 * ()内は65歳以上
定義見直し「1週間を超えて発見されなかった事故」

2009年度169(112)人

2010年度184(132)人(新定義のみでの集計)

(2) 警察が調べた遺体 最多17万3千人 昨年警視庁調べ (朝日新聞夕刊 2013.2.7.)

犯罪の疑いがない遺体は15万377体、独居高齢者の孤立死が増加しているためか。

(3) 東京都監察医務院 事業報告

東京23区での65歳以上の孤立死数(ひとり自宅で死亡)

2002年1364人 2008年2211人 2012年2733人

3 高齢者の社会的孤立問題発生の背景 －問われる日本の家族・地域と生活基盤・貧困－

(1) 家族の変化

① 高齢者世帯の同居率の低下

1980年50.1% → 2012年15.3%

② 高齢単身・夫婦のみ世帯の増加

高齢者のいる世帯の増加

1980年24.0% → 2012年43.4% (夫婦のみ世帯30.3%、単独世帯23.3%、
親と未婚の子のみ世帯19.6%)

(平成26年版高齢社会白書)

(2) 親族関係の希薄化

○「お正月の過ごし方」の指標からみると・・・

「三が日ひとり」

都市部：3割強（港区の2011調査33.4%）

地方：2割半～3割弱（長野県高遠町26% 山形県27%）

○内閣府 2005年度「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

<別居している子どもと「ほとんど毎日」接触している>者は、アメリカが41.2%、フランスが28.0%であるのに対し、日本が16.7%。

(3) 地域社会の変化

都市と農村、それぞれでのコミュニティ・ネットワークの脆弱化傾向

(4) 生活基盤と貧困

生活と労働の不安定化

4 ひとり暮らし高齢者の出現率

定義：「高齢者のいる世帯に占めるひとり暮らし高齢者の割合」

(1) 地域類型

- ① 島嶼部
- ② 過疎地域
- ③ 都市部

(2) 都道府県別の出現率

(3) 自治体別の出現率

図表1 都道府県別
ひとり暮らし高齢者の
出現率

	地域	総人口 【人】	65歳以上人 口 【人】	65歳以上 人口割合	高齢者のいる 世帯総数 【世帯】	単身高齢者 世帯総数 【人/世帯】	高齢者のいる 世帯に占める 単身高齢者数割合 【%】
	全国	128,057,352	29,245,685	22.8%	19337687	4790768	24.8%
	全国市部	116,156,631	26,062,388	22.4%	17284958	4372550	25.3%
	全国郡部	11,900,721	3,183,297	26.7%	2052729	418218	20.4%
1	鹿児島県	1,706,242	449,692	26.4%	294434	102443	34.8%
2	東京都	13,159,388	2,642,231	20.1%	1837074	622326	33.9%
3	大阪府	8,865,245	1,962,748	22.1%	1345444	432816	32.2%
4	高知県	764,456	218,148	28.5%	142421	44773	31.4%
5	北海道	5,506,419	1,358,068	24.7%	884711	261553	29.6%
6	山口県	1,451,338	404,694	27.9%	263709	75403	28.6%
7	宮崎県	1,135,233	291,301	25.7%	188268	53460	28.4%
8	福岡県	5,071,968	1,123,376	22.1%	742228	210453	28.4%
9	愛媛県	1,431,493	378,591	26.4%	247095	69375	28.1%
10	兵庫県	5,588,133	1,281,486	22.9%	861034	239227	27.8%
11	和歌山県	1,002,198	270,846	27.0%	181097	50309	27.8%
12	京都府	2,636,092	605,709	23.0%	405096	110366	27.2%
13	広島県	2,860,750	676,660	23.7%	443073	119757	27.0%
14	長崎県	1,426,779	369,290	25.9%	238703	63245	26.5%
15	大分県	1,196,529	316,750	26.5%	203793	53384	26.2%
16	神奈川県	9,048,331	1,819,503	20.1%	1209217	308463	25.5%
17	沖縄県	1,392,818	240,507	17.3%	158798	40390	25.4%
34	秋田県	1,085,997	320,450	29.5%	206632	39463	19.1%
35	岩手県	1,330,147	360,498	27.1%	232443	43479	18.7%
36	長野県	2,152,449	569,301	26.4%	367070	68614	18.7%
37	宮城県	2,348,165	520,794	22.2%	341031	63203	18.5%
38	静岡県	3,765,007	891,807	23.7%	583403	106279	18.2%
39	福島県	2,029,064	504,451	24.9%	327803	59534	18.2%
40	栃木県	2,007,683	438,196	21.8%	291165	52870	18.2%
41	滋賀県	1,410,777	288,788	20.5%	190131	33890	17.8%
42	岐阜県	2,080,773	499,399	24.0%	326558	57299	17.5%
43	茨城県	2,969,770	665,065	22.4%	435917	75363	17.3%
44	富山県	1,093,247	285,102	26.1%	182851	31441	17.2%
45	福井県	806,314	200,942	24.9%	128521	21356	16.6%
46	新潟県	2,374,450	621,187	26.2%	398544	65027	16.3%
47	山形県	1,168,924	321,722	27.5%	205215	29683	14.5%

図表2 地域類型別自治体のひとり暮らし高齢者出現率の年次推移（上位30位の自治体のみ）

1995年		2000年		2005年		2010年					
(1) 島嶼		(1) 島嶼		(1) 島嶼		(1) 島嶼					
	自治体名	出現率		自治体名	出現率		自治体名	出現率			
1	東京都青ヶ島村	56.7%	1	東京都御蔵島村	53.7%	1	東京都青ヶ島村	70.8%			
2	長崎県高島町	52.1%	2	長崎県高島町	50.2%	2	東京都御蔵島村	67.6%			
3	東京都御蔵島村	45.9%	3	山口県東和町	44.6%	3	東京都小笠原村	46.1%			
4	島根県知夫村	43.0%	4	鹿児島県三島村	44.5%	4	長崎県宇久町	44.7%			
5	山口県東和町	42.7%	5	東京都青ヶ島村	42.9%	5	鹿児島県三島村	44.0%			
6	長崎県岐宿町	42.6%	6	長崎県玉之浦町	42.7%	6	島根県知夫村	43.5%			
7	長崎県玉之浦町	42.6%	7	長崎県宇久町	42.6%	7	東京都利島村	42.0%			
8	鹿児島県三島村	42.3%	8	鹿児島県下甑村	41.9%	8	鹿児島県瀬戸内町	41.9%			
9	長崎県伊王島町	42.1%	9	島根県知夫村	41.6%	9	鹿児島県大和村	41.2%			
10	長崎県宇久町	41.8%	10	鹿児島県住用村	41.3%	10	鹿児島県十島村	40.3%			
11	鹿児島県住用村	41.0%	11	鹿児島県十島村	41.3%	11	東京都大島町	39.9%			
12	鹿児島県下甑村	40.5%	12	長崎県富江町	40.9%	(2) 過疎地		(2) 過疎地			
13	長崎県崎戸町	40.2%	13	沖縄県粟国村	40.8%	1	三重県紀和町	46.6%			
14	長崎県三井楽町	40.1%	14	長崎県崎戸町	40.7%	2	鹿児島県大浦町	41.5%			
15	長崎県富江町	39.7%	15	長崎県伊王島町	40.5%	3	奈良県上北山村	40.8%			
16	鹿児島県瀬戸内町	38.8%	16	鹿児島県瀬戸内町	40.0%	4	徳島県東祖谷山村	40.4%			
17	鹿児島県十島村	38.5%	17	長崎県岐宿町	39.5%	5	山梨県早川町	39.8%			
18	愛媛県魚島村	38.4%	(2) 過疎地		(3) 大都市		6	北海道泊村	39.8%		
(2) 過疎地			1	奈良県下北山村	43.6%	(3) 大都市		(3) 大都市			
1	愛媛県別子山村	44.7%	2	三重県紀和町	42.4%	1	大阪府大阪市西成区	60.7%	1	大阪府大阪市西成区	66.1%
2	奈良県下北山村	43.8%	3	鹿児島県大浦町	40.6%	2	大阪府大阪市浪速区	52.2%	2	大阪府大阪市浪速区	59.0%
3	三重県紀和町	42.2%	4	奈良県上北山村	40.0%	3	大阪府大阪市中央区	46.5%	3	兵庫県神戸市中央区	50.1%
4	和歌山県北山村	42.1%	5	鹿児島県鹿島村	39.9%	4	兵庫県神戸市中央区	46.2%	4	福岡県福岡市博多区	46.7%
5	鹿児島県知覧町	40.1%	6	愛媛県別子山村	39.7%	5	広島県広島市中区	43.2%	5	兵庫県神戸市兵庫区	46.2%
6	岐阜県藤橋村	38.2%	7	北海道泊村	39.7%	6	東京都港区	42.6%	6	福岡県福岡市中央区	45.9%
7	鹿児島県東串良町	37.5%	8	鹿児島県知覧町	39.4%	7	兵庫県神戸市兵庫区	42.4%	7	東京都新宿区	45.2%
8	鹿児島県鹿島村	37.5%	(3) 大都市			8	東京都豊島区	42.0%	8	大阪府大阪市中央区	44.7%
9	高知県東洋町	37.3%	1	大阪府大阪市西成区	49.6%	9	東京都新宿区	41.1%	9	東京都杉並区	44.6%
10	愛媛県瀬戸町	37.2%	2	大阪府大阪市浪速区	44.7%	10	東京都渋谷区	40.4%	10	東京都渋谷区	44.4%
(3) 大都市			3	兵庫県神戸市中央区	42.8%	11	福岡県福岡市博多区	40.4%	11	広島県広島市中区	44.1%
1	大阪府大阪市西成区	43.3%	4	兵庫県神戸市兵庫区	40.6%	12	福岡県福岡市中央区	40.3%	12	東京都豊島区	43.6%
2	大阪府大阪市浪速区	37.9%	5	東京都豊島区	40.3%	13	愛知県名古屋市中区	39.9%	13	愛知県名古屋市中区	43.4%
									14	大阪府大阪市北区	43.3%
									15	静岡県熱海市	43.1%
									16	大阪府大阪市東淀川区	41.3%

資料：1995年、2000年、2005年、2010年国勢調査にもとづき筆者が作成
ひとり暮らし高齢者の出現率＝「高齢者のいる世帯中の単身高齢者世帯の割合」

地域類型別自治体のひとり暮らし高齢者出現率の特徴

(1) 過疎地、島嶼部での自治体数の減少－しかし地域の現実是不変

離島の長崎県高島町、2005年1月、高島町は長崎市に編入合併、高島町のひとり暮らし高齢者の出現率は、1995年時点で全国2位の出現率52.1%（高齢化率35.2%）で、2000年時点でも同じく全国2位、出現率は50.2%（高齢化率42.1%）であった。

ところが、2005年1月に長崎市に編入合併され、高島町の現実には長崎市の中で平均化・潜在化された。長崎市のひとり暮らし高齢者の出現率は、2005年の国勢調査では、28.0%で全国の自治体中334位、2010年の国勢調査では、29.6%で全国の自治体中350位となっている。

(2) 都市部でのひとり暮らし高齢者は、増加傾向にある。

5 高齢者の生活実態と社会的孤立

－東京都港区、横浜市鶴見区、山形県での調査から

(1) 港区ひとり暮らし高齢者調査>

港区(全国での位置) : 1995年 123位

2000年 37位

2005年 13位 (都内で島嶼部をのぞいて第1位)

2010年 38位

① 1995年調査 悉皆調査 (1963ケース、回収率72.6%)

② 2004~2005年調査 40%抽出調査 (964ケース、回収率57.9%) と訪問面接調査を実施

③ 2011年調査 悉皆調査 (3947ケース、回収率69.8%) と訪問面接調査を実施

(2) 鶴見区ひとり暮らし高齢者調査 (2006年実施)

住民基本台帳上の65歳以上でひとり暮らしの者約1万2千名を民生委員が全数訪問。

調査対象：実質ひとり暮らしの高齢者の5998名、2次調査として訪問面接調査を実施（4226ケース、回収率70.5%）。19ケースの1週間の日記。

(3) 山形県ひとり暮らし高齢者調査 (2011年実施)

調査主体：山形県民生委員児童委員協議会

調査の対象：山形県全市町村における実質ひとり暮らし高齢者20%抽出

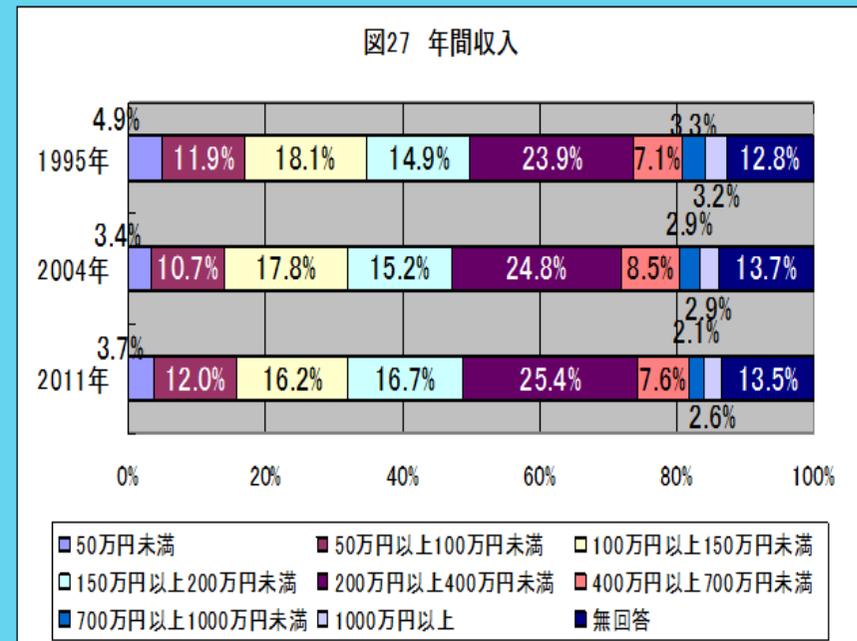
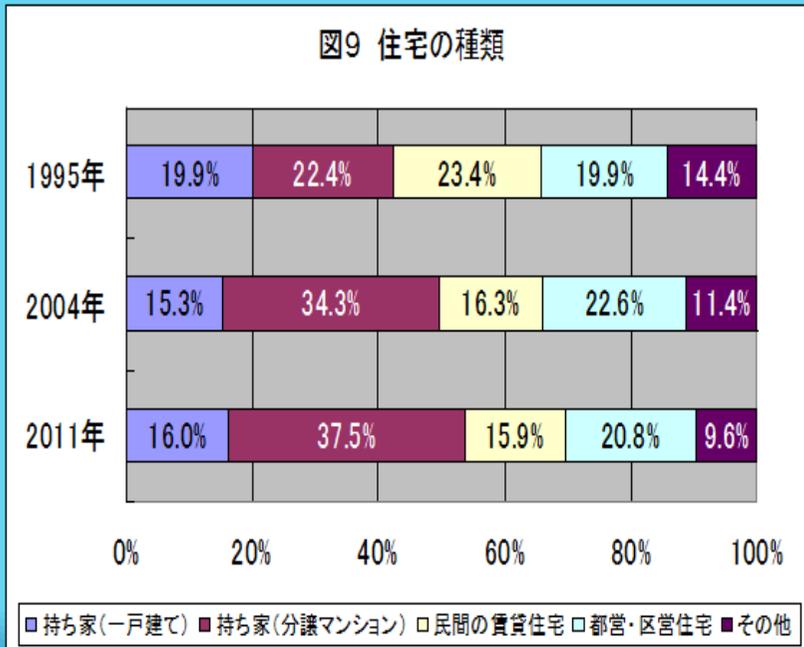
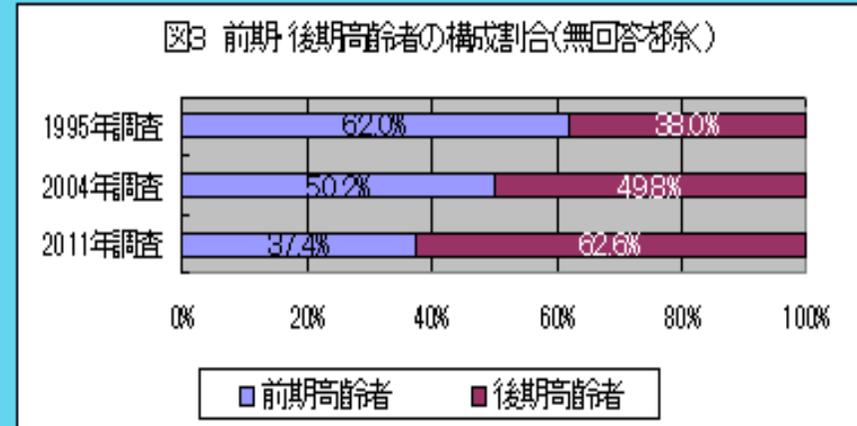
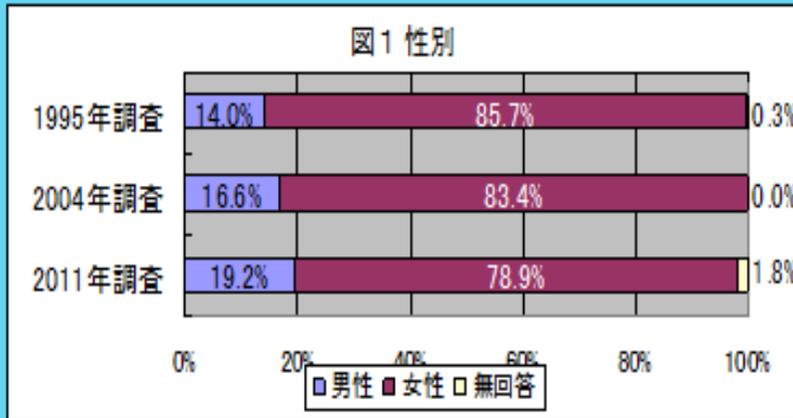
有効回収数は5,160ケース、有効回収率は94.8%

(1) 東京都港区のひとり暮らし高齢者の実態

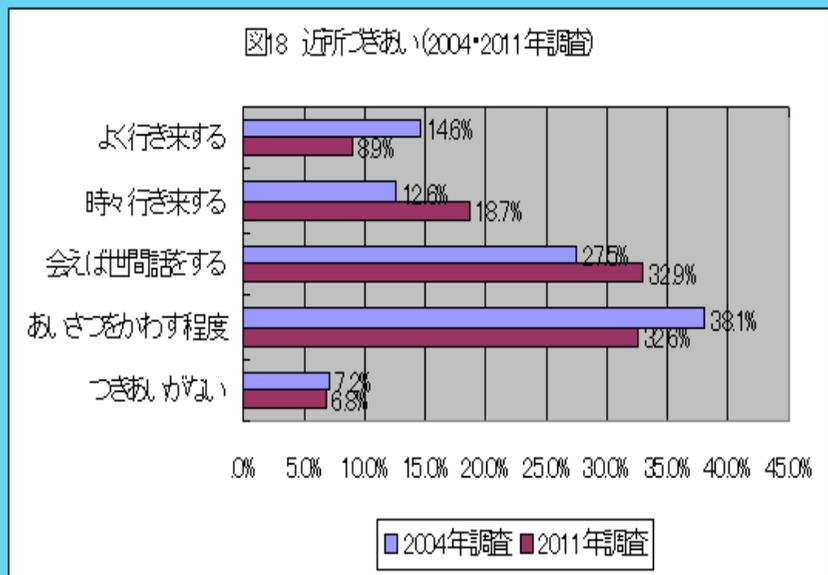
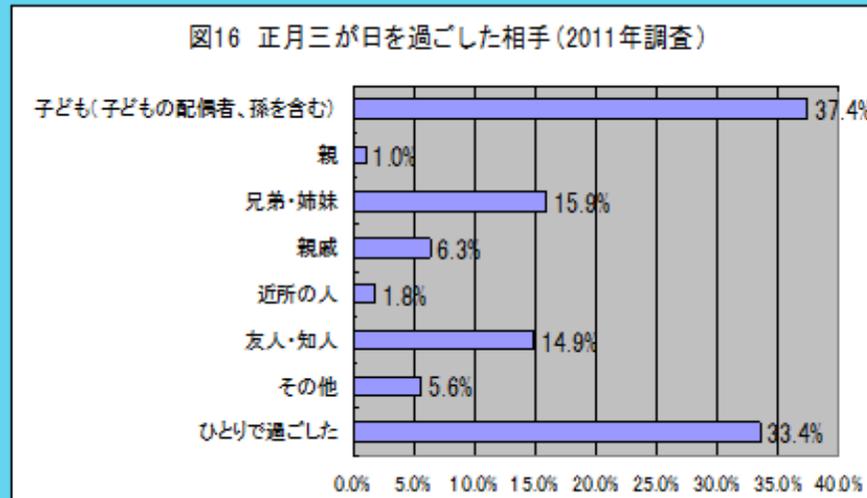
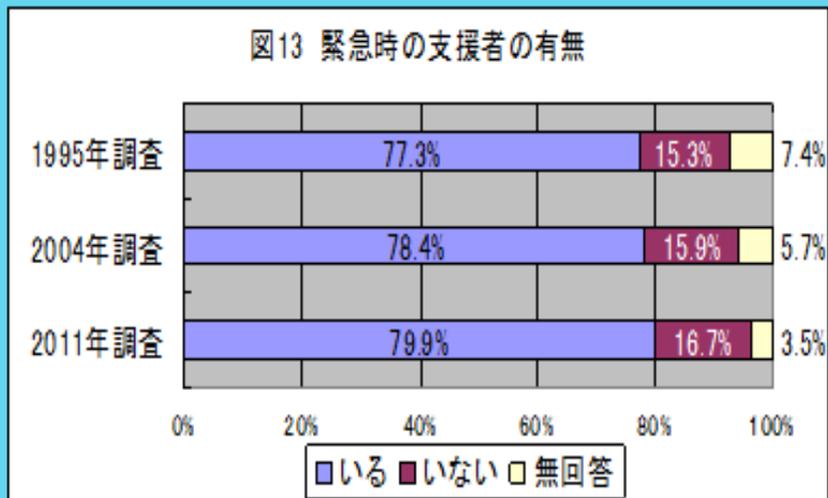
図表3 東京都における
ひとり暮らし高齢者の出現率

	人口	65歳以上 人口割合	単身高齢者数	高齢者のいる 世帯数	出現率
東京都	13,159,388	20.1%	622,326	1,837,074	33.9%
特別区	8,945,695	19.8%	459,968	1,261,281	36.5%
青ヶ島村	201	10.4%	12	20	60.0%
御蔵島村	348	13.8%	22	40	55.0%
小笠原村	2,785	9.2%	97	197	49.2%
三宅村	2,676	35.1%	318	671	47.4%
新宿区	326,309	18.7%	20,489	45,281	45.2%
杉並区	549,569	19.9%	35,346	79,195	44.6%
渋谷区	204,492	18.9%	12,704	28,594	44.4%
豊島区	284,678	19.0%	17,504	40,181	43.6%
大島町	8,461	31.7%	799	1,884	42.4%
利島村	341	20.2%	20	49	40.8%
中野区	314,750	19.6%	18,163	44,664	40.7%
港区	205,131	17.0%	10,116	25,161	40.2%
台東区	175,928	23.1%	11,143	28,235	39.5%
文京区	206,626	18.5%	10,939	27,719	39.5%
八丈町	8,231	32.1%	727	1,850	39.3%
北区	335,544	23.7%	22,524	57,693	39.0%
中央区	122,762	15.9%	5,501	14,216	38.7%
品川区	365,302	19.1%	19,390	50,924	38.1%
千代田区	47,115	19.2%	2,468	6,508	37.9%
板橋区	535,824	20.9%	29,665	78,674	37.7%
武蔵野市	138,734	19.5%	6,895	18,825	36.6%
世田谷区	877,138	18.2%	40,210	112,221	35.8%
目黒区	268,330	19.2%	12,777	36,443	35.1%
荒川区	203,296	21.5%	10,870	31,200	34.8%
大田区	693,373	20.2%	34,690	100,043	34.7%
足立区	683,426	22.1%	36,175	106,117	34.1%
墨田区	247,606	21.3%	12,590	37,565	33.5%

3時点での調査データの比較（その1）



3 時点での調査データの比較 (その2)



正月三が日ひとりで過ごした

1995年調査 34.5%

2004年調査 36.9%

2011年調査 33.4%

港区におけるひとり暮らし高齢者の生活類型（2011年調査）

因子分析に用いた

調査項目（変数）

No.	設問番号	設問項目（変数）
	1Q8	健康状態
	2Q14	買物の頻度
	3Q25	近所づきあいの程度
	4Q34	外出時の会話の程度
	5Q38	年間収入
	6Q39	預貯金額
	7Q41	経済状況の感じ方
	8Q33(1)	外出頻度
	9Q37(1)	今の暮らしには張り合いがある
	10Q37(2)	今の暮らしにはストレスが多い
	11Q37(3)	生活は充実している
	12Q37(4)	生活していて不安や心配がある
	13Q37(5)	趣味をしている時間は楽しい
	14Q37(6)	友人との関係に満足している
	15Q37(7)	近所づきあいに満足している
	16Q37(8)	自分は頼りにされていると思う
	17Q37(9)	周囲から取り残されたように感じる
	18Q37(10)	将来の生活は安心できる

因子分析の結果 抽出した5つの因子

図表4-16 因子抽出時のパターン行列

	因子					抽出した因子
	1	2	3	4	5	
Q37(1)今の暮らしには張り合いがある	0.981					第1因子 生活の満足
Q37(3)生活は充実している	0.896					
Q37(5)趣味をしている時間は楽しい	0.488					
Q37(8)自分は頼りにされていると思う	0.377		0.323			
Q8健康状態	0.345					
Q41経済状況の感じ方		0.868				第2因子 経済状況
Q39預貯金額		0.681				
Q38年間収入		0.603				
Q37(10)将来の生活は安心できる		0.33				
Q25近所づきあいの程度			0.701			第3因子 人間関係
Q37(7)近所づきあいに満足している			0.688			
Q37(6)友人との関係に満足している	0.359		0.447			
Q34外出時の会話の程度			0.391			
Q37(4)生活していて不安や心配がある				0.821		第4因子 不安・ストレス
Q37(2)今の暮らしにはストレスが多い				0.734		
Q37(9)周囲から取り残されたように感じる				0.412		
Q33(1)外出頻度					0.966	第5因子 外出・買い物
Q14買物の頻度					0.375	

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 0.3以下の値は非表示

図表4-17 因子抽出時の構造行列

	因子				
	1	2	3	4	5
Q37(1)今の暮らしには張り合いがある	0.864	0.354	0.462	0.414	
Q37(3)生活は充実している	0.823	0.43	0.407	0.438	
Q37(5)趣味をしている時間は楽しい	0.568		0.543		
Q37(8)自分は頼りにされていると思う	0.529		0.412		
Q8健康状態	0.494	0.303		0.395	0.34
Q41経済状況の感じ方	0.383	0.857		0.386	
Q39預貯金額		0.621			
Q38年間収入		0.59			
Q37(10)将来の生活は安心できる	0.546	0.566	0.313	0.541	
Q25近所づきあいの程度	0.471		0.731		
Q37(7)近所づきあいに満足している	0.602		0.647		
Q37(6)友人との関係に満足している			0.577		
Q34外出時の会話の程度	0.493		0.54		
Q37(4)生活していて不安や心配がある	0.342	0.359		0.792	
Q37(2)今の暮らしにはストレスが多い				0.674	
Q37(9)周囲から取り残されたように感じる	0.455		0.377	0.513	
Q33(1)外出頻度	0.303				0.96
Q14買物の頻度					0.368

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 0.3以下の値は非表示

ひとり暮らし高齢者の生活類型と因子得点の対応表

図表4-18 ひとり暮らし高齢者の生活類型と因子得点の対応表

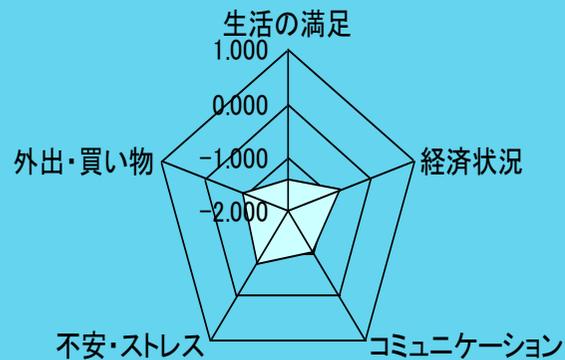
評価基準：A 良い (0.5以上)、B 普通 (-0.5以上～0.5未満)、C 良くない (-1.0以上～-0.5未満)、D 悪い (-1.0未満)

※総合評価は因子得点5項目の平均値の評価とする。

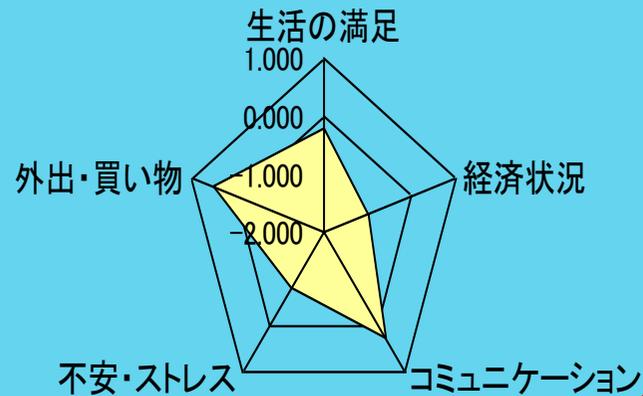
生活 類型	高齢者像・その特徴	全体 割合	度数	総合評価 (リスクの少なさ)		生活の満足		経済状況		人間関係		不安・ストレス		外出・買い物	
				評価	平均 得点	評価	因子 得点	評価	因子 得点	評価	因子 得点	評価	因子 得点	評価	因子 得点
類型1 【多重困難型】	人間関係が非常に悪く、経済状況も良くないため、毎日の生活に強い不満やストレスを感じているタイプ	16.7%	353	C	-0.992	D	-1.406	C	-0.748	D	-1.065	C	-0.801	C	-0.941
類型2 【外出困難型】	外出状況に問題を抱えているが、経済状況、人間関係が良好で生活に一定の満足を得ているタイプ	23.6%	498	B	-0.005	B	0.17	B	0.203	B	0.275	B	0.197	C	-0.868
類型3 【経済困難型】	経済状況が悪く、不安を抱えているが、外出状況が良く、人間関係も良好で日常生活にはあまり不満がないタイプ	15.3%	322	B	-0.242	B	-0.189	D	-1.007	B	0.271	C	-0.786	A	0.501
類型4 【関係困難型】	人間関係には満足していないが、経済状況、外出状況が良いため、毎日の生活に不満を感じていないタイプ	18.9%	398	B	0.04	B	-0.133	B	0.221	C	-0.531	B	-0.039	A	0.68
類型5 【生活安定型】	金銭面でも人間関係でも不安はなく、ストレスも感じていない。毎日を豊かに生活しているタイプ	25.5%	538	A	0.771	A	0.976	A	0.742	A	0.675	A	0.842	A	0.619

生活類型ごとの因子得点グラフ

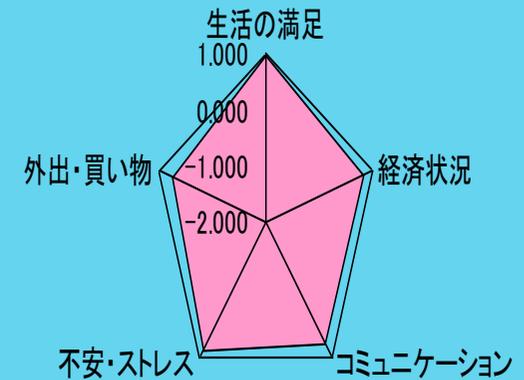
類型1 (多重困難型)



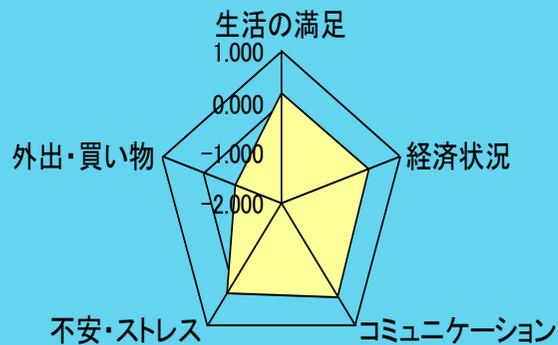
類型3 (経済困難型)



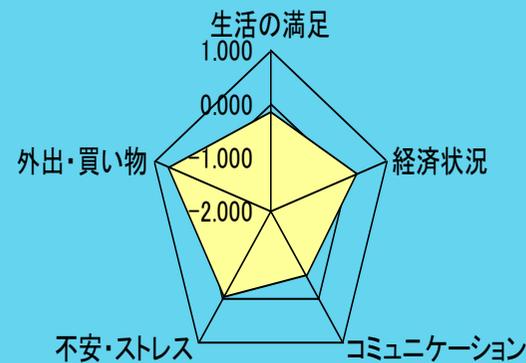
類型5 (生活安定型)



類型2 (外出困難型)



類型4 (関係困難型)



この2つの類型：合計約3割
(32%)は
貧困と孤立状態にある
ひとり暮らし高齢者

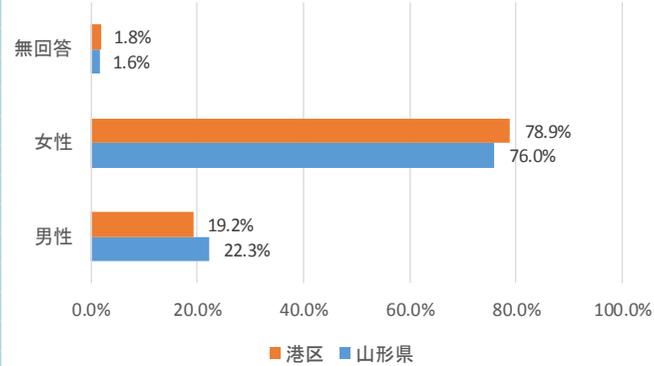
ひとり暮らし高齢者の生活類型ごとの特徴

		類型1 [多重困難型/総合C]	類型2 [外出困難型/総合B]	類型3 [経済困難型/総合B]	類型4 [関係困難型/総合B]	類型5 [生活安定型/総合A]
高齢者像・その特徴		人間関係が非常に悪く、経済状況も良くないため、毎日の生活に強い不満やストレスを感じているタイプ	外出状況に問題を抱えているが、経済状況、人間関係が良好で生活に一定の満足を得ているタイプ	経済状況が悪く、不安を抱えているが、外出状況が良く、人間関係も良好で日常生活にはあまり不満がないタイプ	人間関係には満足していないが、経済状況、外出状況が良いため、毎日の生活に不満を感じていないタイプ	金銭面でも人間関係でも不安はなく、ストレスも感じていない。毎日を豊かに生活しているタイプ
性別	男性	33.1%	11.5%	22.8%	34.1%	16.4%
	女性	66.9%	88.5%	77.2%	65.9%	83.6%
平均年齢		76.7歳	77.9歳	74.6歳	75.0歳	74.8歳
平均居住年数		34.7年	39.7年	36.3年	36.9年	35.6年
持ち家率		41.4%	61.2%	35.0%	66.6%	71.9%
健康状態	健康	9.3%	29.3%	28.9%	38.4%	71.9%
	健康でない	53.5%	22.5%	27.3%	12.3%	3.9%
要介護認定 有無	有	31.0%	21.0%	10.7%	9.9%	6.0%
	無	53.8%	68.0%	72.9%	77.1%	84.9%
現在仕事率		12.4%	20.6%	28.8%	28.6%	37.1%
未婚率		30.0%	25.6%	32.7%	34.5%	27.5%
生存子有割合		53.4%	58.3%	49.0%	50.4%	56.3%
社会参加有無	有	32.2%	59.5%	60.1%	52.0%	71.5%
	無	67.8%	40.5%	39.9%	48.0%	28.5%
社会参加意向	有	21.8%	34.9%	47.9%	40.2%	55.5%
	無	47.8%	31.2%	21.0%	30.2%	22.3%
区の福祉サービスを受給していない割合		53.9%	65.5%	68.8%	71.4%	72.9%

※カイ2乗検定（有意水準は0.05）の結果、いずれの項目も有意であった。

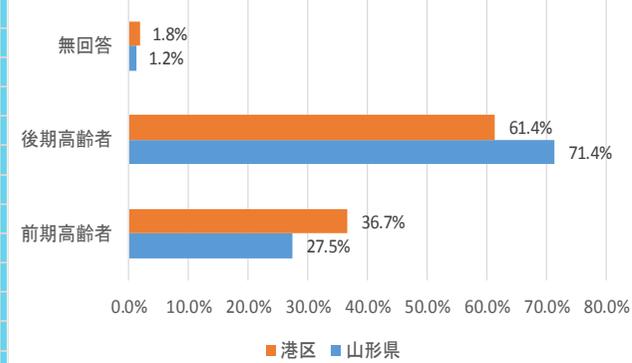
6 農山村と都市での生活の違い

図表5-10 性別



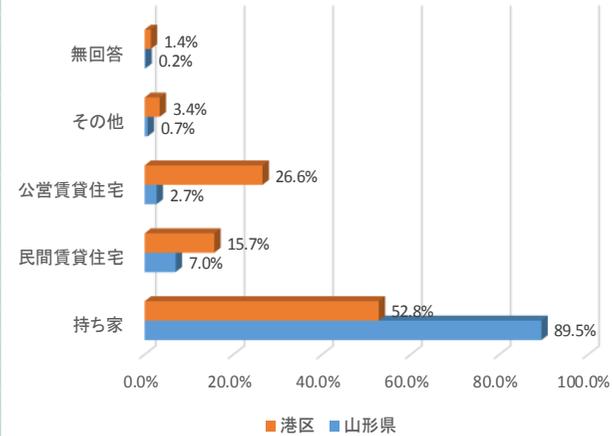
注: 山形調査2011年(n=5160),港区調査2011年(n=3947)

図表5-11 年齢構成



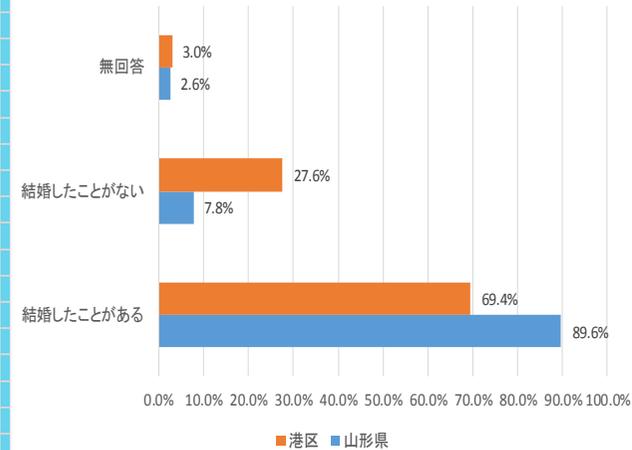
注: 山形調査2011年(n=5160),港区調査2011年(n=3947)

図表5-12 住宅の種類



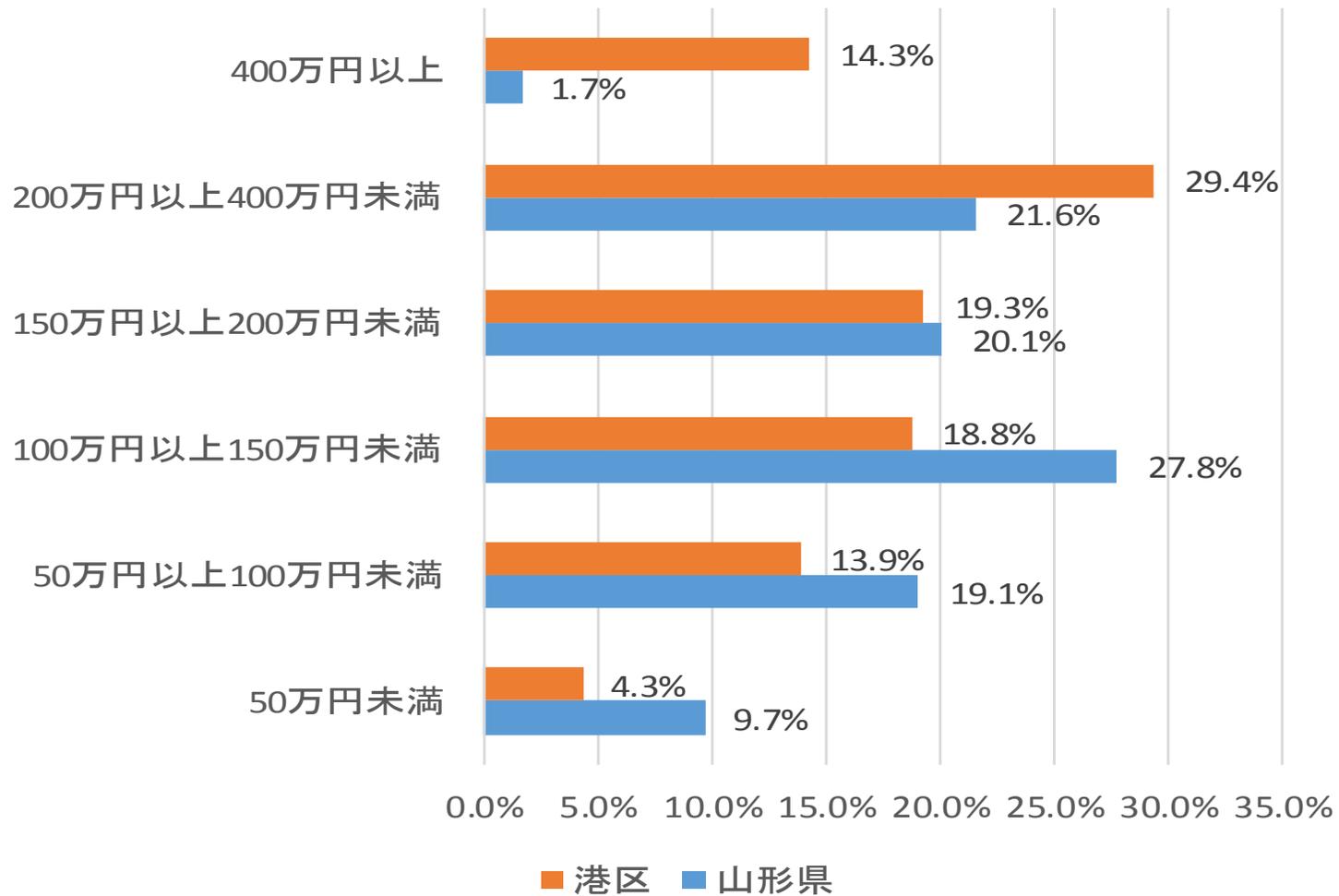
注: 山形調査2011年(n=5160),港区調査2011年(n=3947)

図表5-13 結婚の有無



注: 山形調査2011年(n=5160),港区調査2011年(n=3947)

図表5-14 年間収入



注：山形調査2011(n=4571)年,港区調査2011年(n=3413)
無回答を除く。

港区

年間収入

年間収入	実数	%
150万円未満	1235	36.8%
150万円以上200万円未満	647	19.3%
200万円以上400万円未満	998	29.7%
400万円以上	475	14.2%
合計	3355	100.0%

150万円未満の合計 4割弱 (36.8%)

200万円未満の合計 5割半強 (56.1%)

400万円以上 14.2%

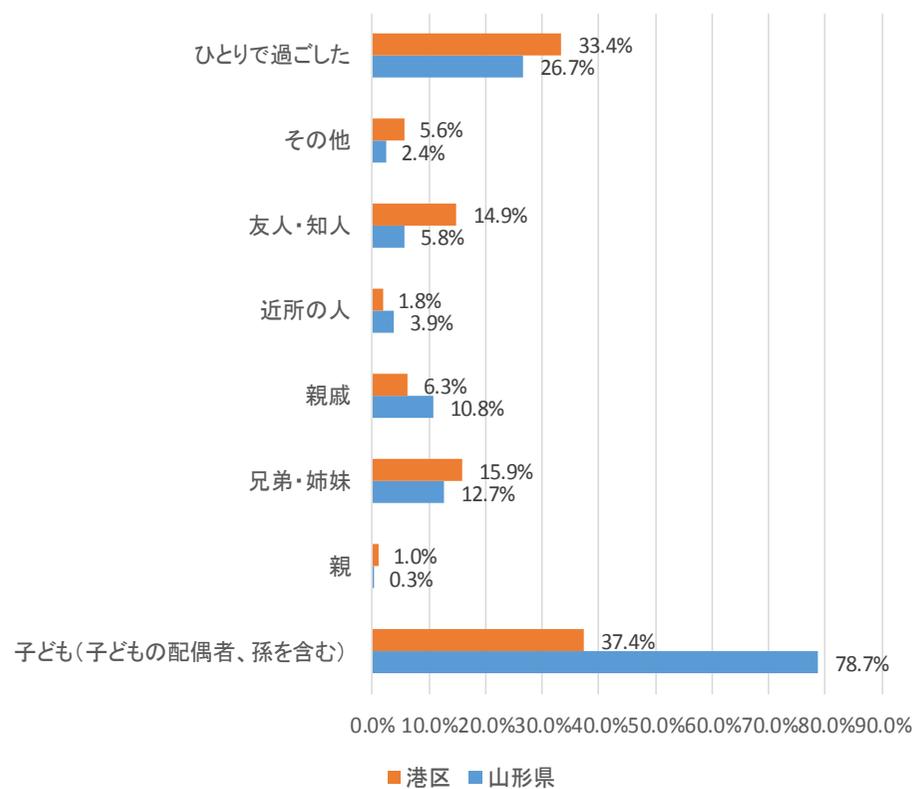
山形県

年間収入

年間収入	実数	%
150万円未満	2588	56.6%
150万円以上200万円未満	918	20.1%
200万円以上400万円未満	989	21.6%
400万円以上	76	1.7%
合計	4571	100.0%

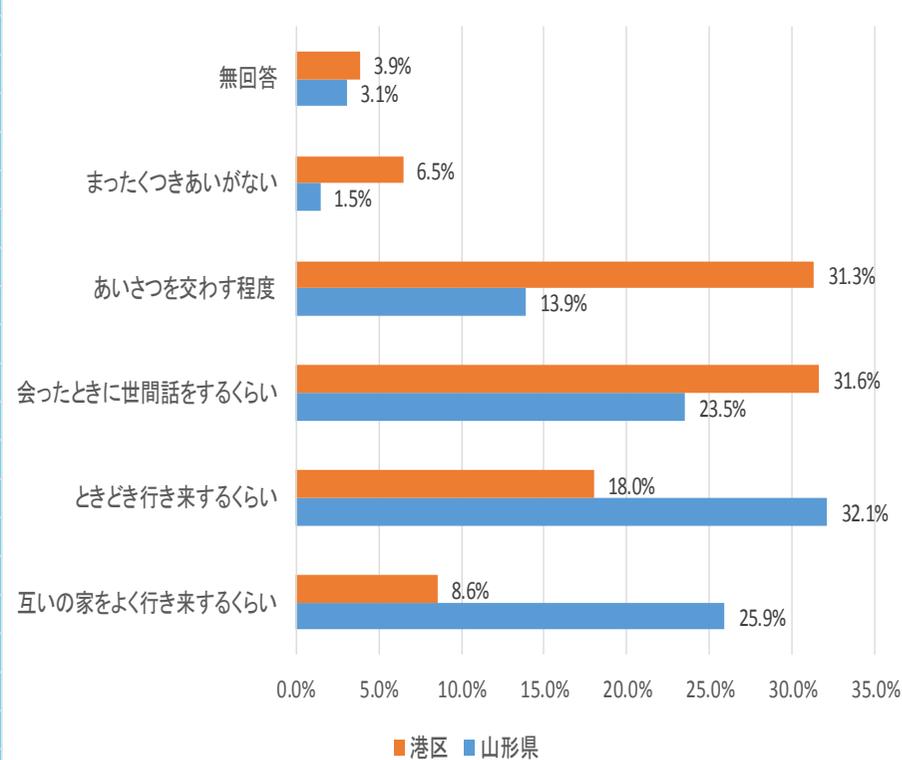
120万円未満の合計 4割半(44.1%)
150万円未満の合計 5割半強(56.6%)
200万円未満の合計 7割半強(76.7%)
400万円以上 1.7%

図表5-16 正月三が日を過ごした相手(複数回答)



注: 山形調査2011(n=4994)年,港区調査2011年(n=3838)

図表5-17 近所づきあいの程度



注: 山形調査2011(n=5160)年,港区調査2011年(n=3947)

7 事例から見る生活の現実

(1) 生活歴を中心とした生活の現実

事例 1 横浜市鶴見区在住のAさん

男性、68歳

(経済的にかなり苦しい、正月三が日をひとりで過ごした、近所付き合いなし、緊急時に誰も来てくれる人がいない、外出は週1回以下)

Aさんの事例について

1. 住宅 駅から300mほど離れた住宅街にある木造2階建ての賃貸民間アパートの2階に住んでいる。専用のトイレ・台所・風呂あり。部屋の数はいくつか以外に2部屋あり、それぞれ約4.5畳ずつ。1ヶ月の家賃は2万円。床や壁が薄く、近隣住民の足音で目が覚めてしまうほどで、大家に問題の対処をお願いしている。
2. 仕事 **最長職は鳶職。**職人として全国各地に仕事に行っていたそうである。60歳を過ぎるとどこの現場でも受け入れてくれなくなり、職を失うことになった。
3. 収入 2年前にガンになり、貯金をすべて使い果たし、生活保護を受けることになった。月8万円の生活保護費から家賃2万円と光熱費を差し引くと、使えるお金が少なく、満足のいく生活が送れないと何度も訴えていた。

1次調査では、外出頻度は「週1回以下」と答えているが、日記にあるように、毎日のように外出はしているが、本人は外出とは捉えていない。家にいると暑いので、涼むため電車に乗り、一路線を行き来し、日中を過ごしている。自転車に乗って外出もしているが、1週間、誰とも会話をしていない。

日記には、食事とか散歩とか、何かをした後に「終了」という表現が多くあるが、最長職が鳶職であり、何かをやった後に確認をする習慣が、いまでも残っているのであろう。

父親は林業に従事し、本人は中学校を卒業して、上京し、鳶職で40年間働き、独身のまま今日に至っている。

親族との繋がりはなく、正月三が日も一人で過ごし、近隣との付き合いも挨拶程度。社会活動もない。

鳶職は、建築現場では比較的高い日銭を得られる仕事であるが、働けなくなった後の生活保障はない。2年前に病気をし、貯金を使い果たし、現在は生活保護を受給している。親族・地域ネットワークはほとんど形成されていない。

事例 2 横浜市鶴見区在住のBさん

73歳、男性

(経済的にかなり苦しい、正月三が日をひとりで過ごした、近所付き合いなし、緊急時に誰も来てくれる人がいない、外出は週1回以下)

Bさんの事例について

Bさんは、東北地方の出身で、中学卒業までは親元にいた。両親は製鉄関係の仕事をしていた。中学卒業後、魚の加工関係の仕事につくため北海道へ。北海道で7～8年働き、21歳から31歳までは新潟や富山などダム建設現場で働いていた。32歳で川崎市に来た。そこで建設関係の仕事に着いたが、1年で辞め、その後は定年まで冷暖房の配管工の仕事に従事していた。

未婚で子どもはいない。中学卒業からずっとひとり暮らしである。

年金額は月7万1000円。年金だけでは足りず、貯金を切り崩している。自分の経済状況についてはかなり苦しいと感じている。

1ヶ月3万5000円の木造の賃貸民間アパートに住んでいる。お風呂はない。銭湯は高いので、入浴は週1回のみ。夏よりは、冬場にお風呂に入れないことが辛いとのこと。それは、冬は寒くてよく眠れないので、お風呂でゆっくり暖まって寝てみたいとのことであった。

人工透析を週に3回受けている。病院へ行く日は、それだけで一日が終わってしまう。行き来している親族はいない。兄妹と最後に連絡を取ったのは3年前。日頃行き来している友人はいない。正月三が日は「いつもと変わらず、一人で過ごした」とのこと。近所付き合いは挨拶をする程度。社会参加活動については、体の調子が悪い、費用がかかる、集団活動が苦手、おっくうであるという理由から一切参加していない。

緊急通報システムを利用しているのみで、他の制度の利用はない。

不安定就業に従事し、未婚のまま高齢期を迎え、親族・地域ネットワークが希薄なケースである。現在の孤立状況は、高齢期になって出現したものではない。生涯の不安定な仕事と生活の中で形成されたものであることを認識しなければならない。

8 高齢者生活の現実から求められていること

- (1) 生涯にわたる労働と生活の基盤の必要性
- (2) 地域社会の安定性の確保、地域ネットワークの発展
- (3) 家族ネットワークの再構築

Monika STEFFEN

(グルノーブル大学教授)

Directeur de recherche CNRS (国立科学研究センター)

Directeur de la Spécialité de master
"Politiques Publique de Santé"

「日本のような<孤立死>は、フランスであり得るとしたら、用意周到な自殺以外考えられない。」

(2013年5月、

明治学院大学にて)



参考文献・資料

参考文献

- 1 河合克義『大都市のひとり暮らし高齢者と社会的孤立』法律文化社、2009年
- 2 『「消えた老人」はなぜ生まれるのか』パネルディスカッション（河合克義、清原慶子、寺田美恵子、真鍋弘樹、新藤宗幸（司会））、「都市問題」公開講座ブックレット23、財団法人東京市政調査会、2011年6月
- 3 河合 克義編著『福祉論研究の地平－論点と再構築』法律文化社、2012年
- 4 河合克義・菅野道生・板倉香子編著『社会的孤立問題への挑戦』2013年
- 5 河合克義『老人に冷たい国・日本－「貧困と社会的孤立」の現実』光文社新書、2015年

参考資料

1 総務省「今後の都市部におけるコミュニティのあり方に関する研究会」

2011年7月から2014年3月まで

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/tosi_community/index.html

2 総務省「都市部におけるコミュニティの発展方策に関する研究会」

2014年7月～2015年3月

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei02_02000083.html

3 総務省自治行政局住民制度課長「都市部をはじめとしたコミュニティの

発展に向けて取り組むべき事項について（通知）」（総行住第49号）2015年

5月12日

http://www.soumu.go.jp/main_content/000356752.pdf